

名晶会大阪支部「第 21 回交流会」開催報告

6月18日（土）、名晶会大阪支部「第21回交流会」を梅田にある中央電気倶楽部で開催しました。過去数年は在阪の大手企業の見学会を中心に行ってきましたが、今年は講演会を中心に開催し、金属工学科（K科）卒業生のみならず他科卒業の聴講希望者も含めて31名の方々に参加いただきました。概要を以下に報告いたします。

（1）第1部 講演会（15：00～17：00）

①「研究者にして旅人—中性子と材料開発—」

京都大学名誉教授 福永 俊晴 氏 （K48年卒業）

<講演概要>

名古屋工大卒業後東北大学、金研、原研、電磁研、名古屋大学、京都大学を通じ、一貫して研究手段として「中性子」を選び研究に取り組まれてきた。その基礎的研究成果のいくつかをご紹介いただくとともに本年3月まで勤務された京都大学原子炉実験所の紹介、関与された中性子散乱装置等のご説明を受ける。更に現在、京都大学産官学連携本部の特任教授として取り組まれているテーマ：「次世代全固体リチウム電池を構成する固体電解質としての超イオン伝導材料の構造研究」についても触れていただいた。

②「シャープでの技術開発業務と韓国滞在記」

元シャープ液晶事業本部副本部長 神戸 孝 氏 （K48年卒業）

<講演概要>

太陽電池から液晶パネルまでシャープ勤務時代にたずさわられた技術開発の内容についてご説明を受ける。特に液晶パネルについてはパネルの大型化と低コストの実現によるCRTに変わるディスプレイの創出の開発を振り返って、その狙い、どのように取り組んだのか、又、その成果等詳細にご説明いただいた。又、その後サムソン電子の顧問としてご勤務されたご経験から、韓国企業の体質、韓国事情他についてもトピックス的にお話をいただいた。

（2）第2部 幹事からの「大阪支部交流会の歩み」「直近1年間の主な活動」「2015年度会計報告」に続き、懇親会（17：00～19：00）



懇親会では名古屋工業会大阪支部長の木越正司氏からの昨今の名古屋工大及び名古屋工業会の状況説明を受けるとともに参加者（特に名古屋・三河地区など遠方から来阪された方々、新たに参加された方々を中心）からの自己紹介・コメントを受け定刻に散会いたしました。

記：加藤 修（K48年卒業）